

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します



令和元年度 事業報告書



目次

1 ご挨拶 1

戸倉 新樹 浜松医科大学皮膚科学講座 教授
谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター 特任講師

2 事業について 3

- ・ 活動概要
- ・ 取り組み
- ・ 構成メンバー

3 実績報告 5

- ・ 成 果
 - ・ 相談事業について
 - ・ プログラムの作成、運用について
 - ・ 浜松医科大学との連携体制
 - ・ 県内医療機関との連携体制
- ・ 実施状況
 - ・ 啓発活動
 - ・ 静岡県女性医師支援担当者懇談会
 - ・ 学生支援
 - ・ アンケート調査報告
 - ・ 相談窓口の設置
 - ・ センターの活用
 - ・ マタニティ白衣の無料貸出し

4 広報活動・情報発信 31

- ・ ホームページについて
- ・ パンフレットの配布
- ・ 視察
- ・ 講演会
- ・ シンポジウム等での発表
- ・ その他

5 アクセス・発行について 36

ご挨拶



センター長挨拶

戸倉 新樹

浜松医科大学皮膚科学講座 教授

女性医師にとっていくつかのライフイベントは重要な課題であり、とくに出産、育児は人生の選択そのものです。まさに子育てを行っている期間、女性医師は長期休職となることが多く、復帰してもパートタイマーとして働くことが多いのが現状です。特に時間外勤務や夜勤が多い診療科では、出産、育児により現場を去る女性医師が増加しています。ふじのくに女性医師支援センターは、その支援を組織化し、効率を挙げ、実質的なものとするべく邁進しています。

一方では女性医師支援は、医師不足の解消という目的もあり、浜松医科大学では「静岡周産期医師長期支援プログラム」を文部科学省の事業として平成21年～25年にかけて行っていました。次いで女性医師支援相談窓口設置事業が静岡県の浜松医科大学への補助事業として平成25年から27年まで行われ、続いて現在、浜松医大女性医師支援センターは、静岡県のふじのくに女性医師支援センターとしても機能しています。出産後の女性医師の復帰は、静岡県の医療にとっても実現すべき重要な目標ですので、出産後早期の職場復帰をサポートし、非常勤医師の常勤化を促していきたいと考えています。

女性医師の職場復帰にとって、情報の集積と発信は大きなツールとなるため、県内のどういう病院がどういう条件で女性医師の復帰を行っているか、また勤務形態は斟酌されているか、といった情報を集積するために、センターでは谷口医師を中心に県内病院を訪問し、大きな成果を挙げつつあります。最終的にはウェブシステムさらに充実することができれば、情報収集のための努力を省略することができるのですが、その前段階の活動は重要な意味を持ちます。子育て支援についても、女性医師支援センターは、認可保育園などの情報収集と発信、育児のためのスペースの提供、病児病後時保育の運営など重要な役割を担っているため、こうした活動が広く県内に拡大することを次のステップとしていきたいと考えています。そのためにも病院内外において、情報交換や体験談に基づく講演などを企画しており、その情報や成果も提供しています。また浜松医大附属病院には女性医師支援センターの非常勤医師枠による雇用も稼働し、常勤医員でも活用可能となっています。

同じ問題や悩みを抱える女性医師が頼る場となることがふじのくに女性医師支援センターの目指すところです。対象女性医師が気軽にしかも実質的に利用できるようなプラットフォームを理想と思い描いています。



専任医師挨拶

谷口 千津子

浜松医科大学医学部附属病院

女性医師支援センター 特任講師

男女共同参画という言葉は、男女が社会的にも、家庭内においても互いに協力し意欲に応じて活躍できる場が確保され、一人ひとりの豊かな人生の実現を目指すものとして広く認識されてきています。医療の世界でも女子医学生、女性医師の増加がみられ、育児や家庭生活のすべてが女性に任されるのではなく、男女が平等に家庭と仕事の両立が出来る環境作りをしていくことが求められています。現実的には育児をはじめとする家庭生活の負担は母親である女性医師が担っているケースが半数以上を占めており、これらの女性医師の多くが結婚・出産・子育てを通じてキャリア形成やその維持について、また育児や子供の教育にかかわる母親として仕事と家庭のありかたを悩み、選択を迫られることとなります。一方で近年では子育てに積極的に参加する男性医師も増加し、女性医師と同様に家庭と仕事の両立について悩まれる方もいらっしゃいます。「ふじのくに女性医師支援センター」は一人でも多くの先生が家庭人としての生活を享受しつつ、医師としてもキャリアを形成し、地域で活躍できるよう県内医療機関と連携して支援する事を目的としています。現在、女性医師の割合が全体の20%を超え、30歳未満の医師では1/3を超えてきているため、妊娠・出産といったライフイベントと専門医取得のためキャリア形成を行う時期が重なる医師はますます増加していくこととなります。当センターでは県内の医療機関に携わるすべての女性医師に対して休業中からキャリアを積んでいけるよう就業支援活動、子育て支援など家庭を支えるために必要な情報を提供し、出産後早期の職場復帰を実現させキャリアを積んでゆくために支援していくことを目指しています。

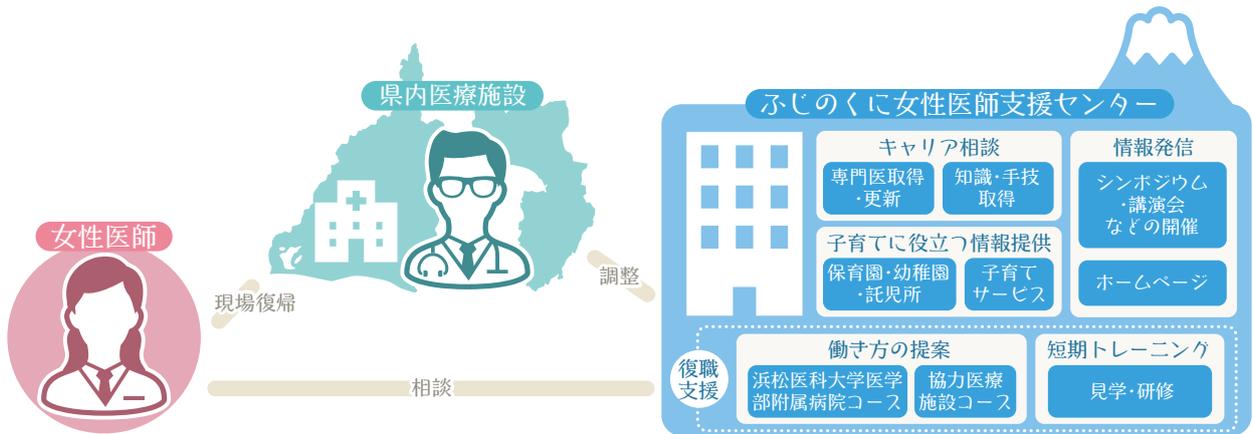
「ふじのくに女性医師支援センター」は県内の公的医療機関や浜松医科大学の各講座の先生方のご協力をいただいて3年目の活動となりました。3年経ってまだ入り口に到達したばかり、足りない事が目についた1年となりましたが、これから更に活動を広げていきたいと思っております。

女性医師のキャリアを進めていく経験はいろいろな形で、後に続く人たちも繋がっています。最終的には県内の女性医師同士がつながれるネットワークの中継組織でもありたいと考えています。皆さんに活用されることによりこの「ふじのくに女性医師支援センター」の活動も発展していくものと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

事業について

活動概要

県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。



取り組み

キャリアサポート

①キャリアコンサルタント

出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

②復職支援

それぞれの状況に合わせた、働き方の提案を行っています。浜松医科大学をはじめ、県内の医療施設と連携し、スムーズに復職ができるようサポートします。

- 1) ワーキングコース ■浜松医科大学医学部附属病院コース ■協力医療施設コース
- 2) 短期トレーニングコース ■見学コース ■短期研修コース

③啓発活動

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。

これから医師を目指す人、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようイベントを通して情報発信をしています。

両立サポート

- ①情報提供（子どもの預け先、育児サービス等）
- ②マタニティ白衣とマタニティパンツの無料レンタル

構成メンバー

ふじのくに女性医師支援センター

区 分	内 容
開 設 日	平成 29 年 4 月 3 日 (月)
開設場所	浜松医科大学医学部附属病院 (病院棟 5 階 503 号室)
組織体制	センター長 戸倉 新樹 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長) コーディネーター (専任医師) 谷口 千津子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任講師) コーディネーター (専従事務員) 袴田 菜穂子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター)
時 間	午前 9 時から午後 5 時まで

女性医師支援連絡協議会

区 分	内 容
目 的	センターの運営が、設置の趣旨に沿って効果的に行われるようにするため、女性医師支援連絡協議会を設置
協議委員	会長 奈良 雅文 静岡県健康福祉部医療健康局技監 委員 角嶋 直美 静岡県立静岡がんセンター内視鏡科医長 委員 野々木 宏 静岡県立総合病院安全衛生監兼集中治療センター長 委員 戸倉 新樹 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長 委員 小林 利彦 静岡県医師会理事 委員 谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任講師

実績報告

成果 (R2.3.10 現在)

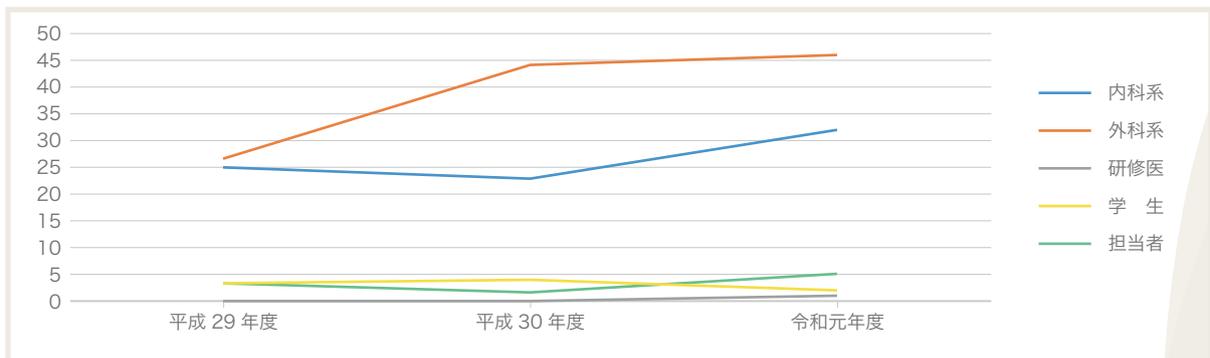
相談事業について

区分	実績件数
就業相談	146 件
キャリア形成相談	38 件
その他相談	10 件

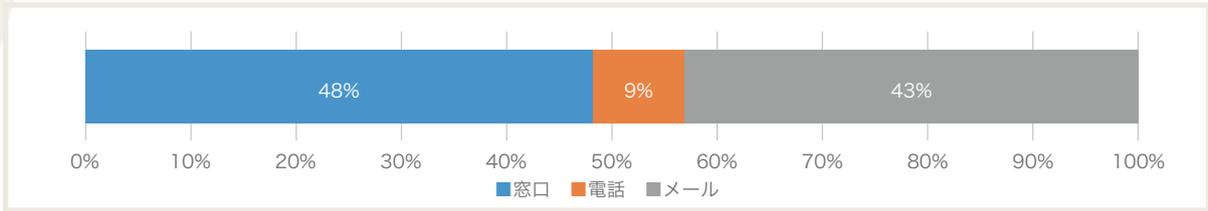
相談者数内訳：相談者数 37 名 (医師 32 名、医学生 1 名、担当者等 4 名)、相談回数 86 回

区分	診療科	医師				学生	担当者等
		卒後 5 年未満	卒後 5 年～ 10 年未満	卒後 10 年～ 15 年未満	卒後 15 年以上		
医師	内科	1	2	1	2		
	精神科					1	
	小児科		1		1		
	外科			1			
	皮膚科		2	1			
	眼科					2	
	産婦人科		6	3		2	
	放射線科		1				
	形成外科					1	
	小児外科				1		
	病理診断科					1	
	救急科					1	
	研修医	1					
	学生					1	
担当者等						4	
合計 37 名		2	12	7	11	1	4

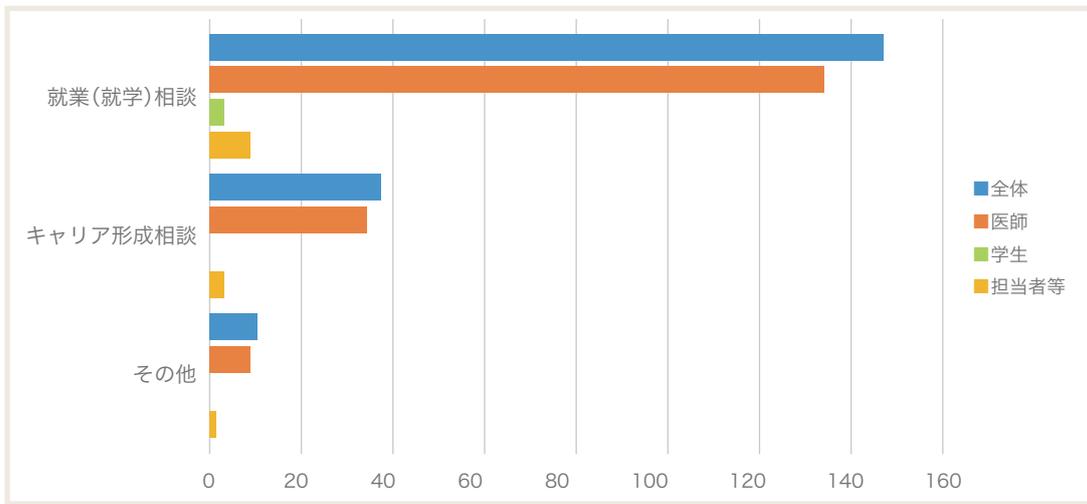
相談件数の推移



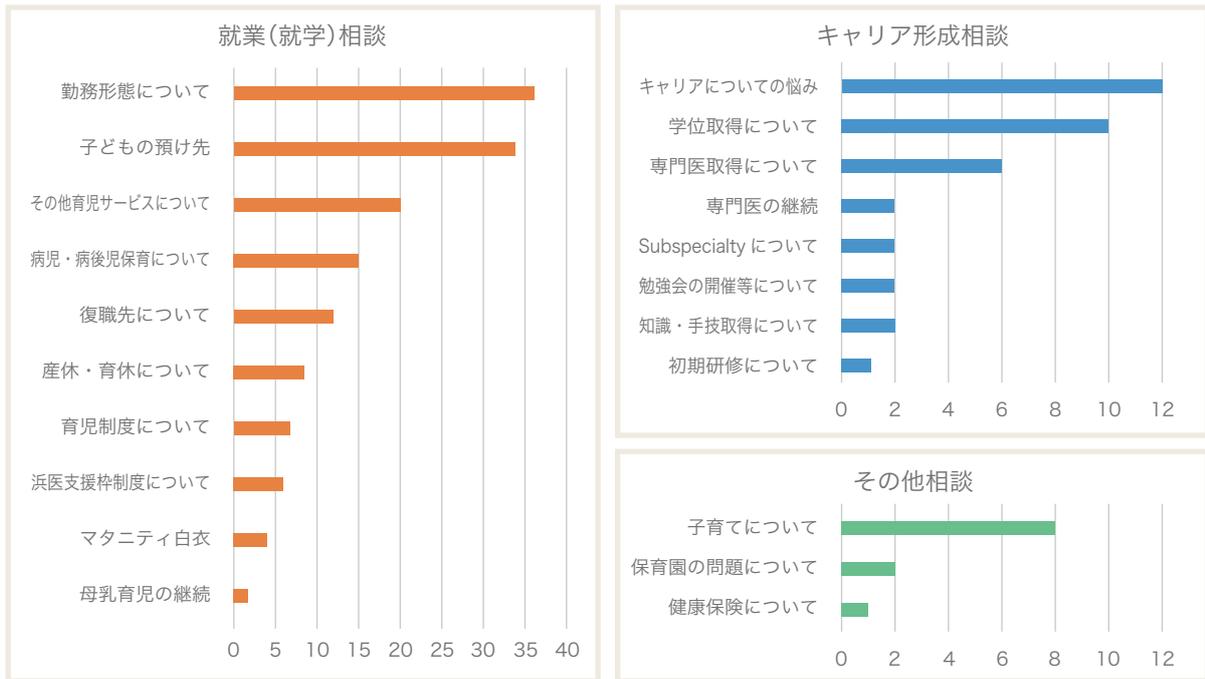
相談方法



相談項目別 (※ 1回の相談において複数の項目が該当する場合あり)



相談内容内訳 (※ 1回の相談において複数の項目が該当する場合あり)



プログラム作成、運用について

区分	実績
新規プログラム作成	1 診療科
プログラム運用	4 名

新規プログラムの作成については地域家庭医療学講座より 2 プログラムを提示頂きました。
各施設のプログラム運用について今年度は 4 名の方のプログラムを作成し復職支援を行いました。
うち 1 名の方は浜松医科大学女性医師支援枠を利用して復職しています。

令和元年度復職支援者一覧

診療科	人数
産婦人科	3 名
小児外科	1 名
合計	4 名

勤務先一覧 (R2.2 現在の勤務先)

診療科	浜松医科大学	その他医療機関	県外へ転居
平成 29 年度	—	1 名	1 名
平成 30 年度	3 名	2 名	—
令和元年度	2 名	2 名	—
合計	5 名	5 名	1 名

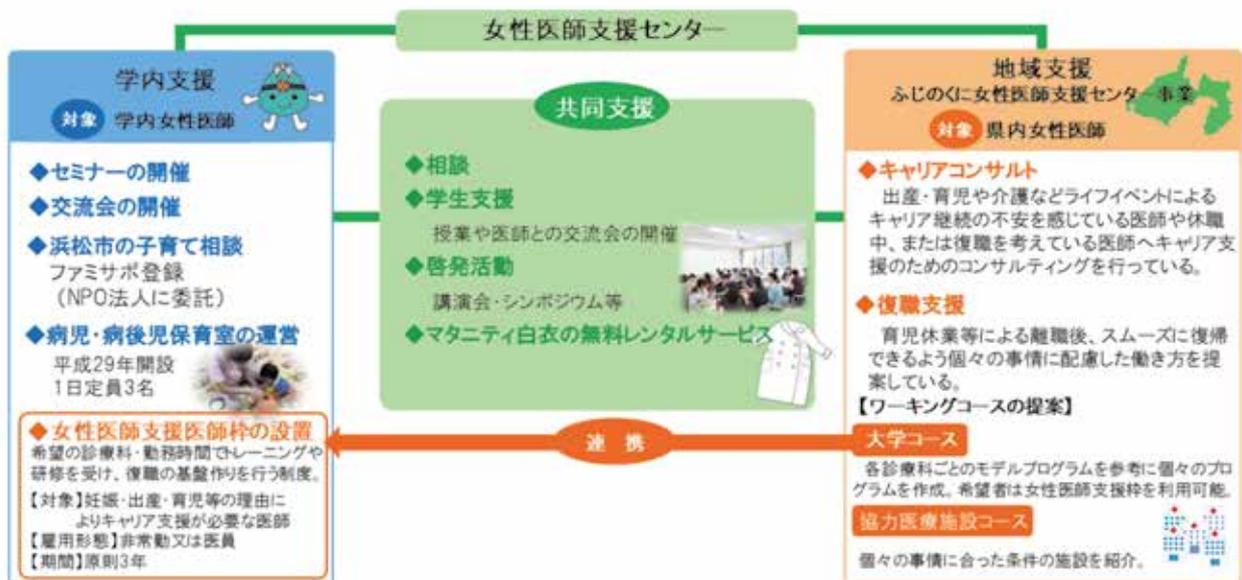
③大学内診療科、県内医療機関等への訪問等について

区分	浜松医科大学	その他医療機関
訪問数	15 施設	10 施設

浜松医科大学との連携体制

①大学との連携、組織図

ふじのくに女性医師支援センターは静岡県内の委託事業として浜松医科大学が中心となり取り組んでいます。学内支援では大学女性医師支援センターが主体となり、学内女性医師を対象に病児・病後児保育室の運営やイベントを行っています。地域支援ではふじのくに女性医師支援センターが主体となり、県内全域の女性医師を対象に各医療施設と連携して就業・キャリアに関する幅広い支援を行っています。



②診療科訪問・復職トレーニングモデルプログラムの作成依頼

15科を訪問し、事業の報告と各講座の状況を確認しました。

今年度は新規で地域家庭医療学講座より2プログラムの提示がありました。現在、49プログラムが浜松医科大学女性医師支援センターホームページより閲覧可能です。

※復職トレーニングプログラムとは出産や育児で一時的に臨床の第一線から離れざるを得なかった女性医師に対して、キャリア継続支援を目的として作られた就業計画書です。

浜松医科大学女性医師支援センターホームページ

<http://www2.hama-med.ac.jp/w1b/woman/index.html>

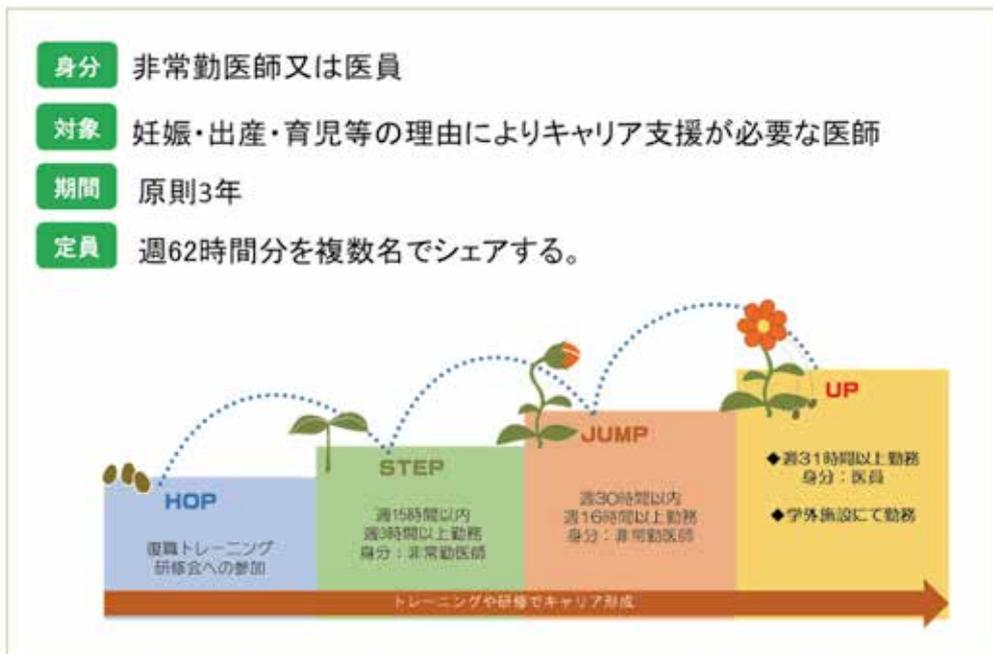


浜松医科大学連携講座・診療科一覧

診療科	プログラム数	診療科	プログラム数	診療科	プログラム数
第一内科	3	整形外科	2	麻酔科	1
第二内科	6	皮膚科	1	リハビリテーション科	1
第三内科	6	泌尿器科	1	形成外科	1
精神科	3	眼科	1	病理診断科	—
小児科	6	耳鼻咽喉科	1	救急科	1
第一外科	5	産婦人科	3	小児外科	—
第二外科	—	放射線科	4	地域家庭医療学	2
脳神経外科	1	プログラム合計			49

③浜松医科大学女性医師支援枠の活用

常勤として勤務が困難な女性医師を含め、離職を避けるために、浜松医科大学女性医師支援センターにて採用枠を設け、医員または非常勤医師として雇用します。支援枠を利用している期間は希望の診療科でトレーニングや研修を行い、非常勤の医師は常勤医として大学または県内医療機関で復職できるよう基盤作りを行います。この制度を活用しながら大学で復職希望の医師をサポートしています。



申込みの流れ



1. 利用希望者はエントリーシートに記入をし、勤務開始希望月の3ヶ月前までにセンターに申請をしてください。
2. エントリーシートに沿って現状や希望する勤務内容の確認を行います。
3. センター長と診療科担当医が申請の受理について検討します。
4. 採用となった場合は就業に関する具体的な内容について最終確認を行います。
5. 希望月より就業を開始します。

県内医療機関との連携体制

①訪問・協力依頼

県内の公的医療機関等は6施設、その他医療施設を4施設訪問しました、各病院長・担当医師・担当事務と面談し、下記について依頼しました。

- ①事業への協力（復職支援協力医療施設としてホームページに登録）
- ②院内の女性医師数等の情報提供
- ③院内での周知活動（チラシ・パンフレットの配布）
- ④担当者がいない施設については配置依頼

【訪問施設一覧】



②復職支援協力医療施設

復職支援協力医療施設とは下記の全ての条件を満たす施設です。

- ◆ 仕事と家庭を両立するための支援制度がある。
- ◆ 専門医取得や更新を目指した就業支援が可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターのホームページに復職支援協力医療施設として情報を登録していること。
また、センターのバナーを施設のホームページに貼ることが可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターの活動に協力が可能な施設であること。

ホームページでは結婚・育児等で休職中の女性医師や家族の転勤に伴い県外から転居してきた女性医師が離職することなく、スムーズに勤務継続ができるよう復職支援協力施設の検索や閲覧できます。

地域で検索（複数選択可）			
<input type="checkbox"/> 賀茂	<input type="checkbox"/> 下田市	<input type="checkbox"/> 河津町	<input type="checkbox"/> 松崎町
	<input type="checkbox"/> 東伊豆町	<input type="checkbox"/> 南伊豆町	<input type="checkbox"/> 西伊豆町
<input type="checkbox"/> 熱海伊東	<input type="checkbox"/> 熱海市	<input type="checkbox"/> 伊東市	
	<input type="checkbox"/> 伊豆市	<input type="checkbox"/> 伊豆の国市	<input type="checkbox"/> 沼津市
<input type="checkbox"/> 駿東田方	<input type="checkbox"/> 三島市	<input type="checkbox"/> 裾野市	<input type="checkbox"/> 沼津町
	<input type="checkbox"/> 清水町	<input type="checkbox"/> 長泉町	<input type="checkbox"/> 御殿場市
	<input type="checkbox"/> 小山町		
<input type="checkbox"/> 富士	<input type="checkbox"/> 富士宮市	<input type="checkbox"/> 富士市	
<input type="checkbox"/> 静岡	<input type="checkbox"/> 静岡市清水区	<input type="checkbox"/> 静岡市葵区	<input type="checkbox"/> 静岡市駿河区
<input type="checkbox"/> 浜水橋原			
<input type="checkbox"/> 中東遠			
<input type="checkbox"/> 西部			

診療科で検索（複数選択可）		
内科系	<input type="checkbox"/> 消化器内科	<input type="checkbox"/> 腎臓内科
<input type="checkbox"/> 内科	<input type="checkbox"/> 内分泌・代謝内科	<input type="checkbox"/> 呼吸器内科
<input type="checkbox"/> 神経内科	<input type="checkbox"/> 循環器内科	<input type="checkbox"/> 血液内科
<input type="checkbox"/> 肝臓内科	<input type="checkbox"/> 精神科神経科	<input type="checkbox"/> 小児科
<input type="checkbox"/> 免疫・リウマチ内科	<input type="checkbox"/> 放射線科	<input type="checkbox"/> 病理診断科
<input type="checkbox"/> 皮膚科	<input type="checkbox"/> その他	
<input type="checkbox"/> 核診		
外科系		
<input type="checkbox"/> 外科		
<input type="checkbox"/> 乳癌外科		
<input type="checkbox"/> 脳神経外科		
<input type="checkbox"/> 眼科		
<input type="checkbox"/> 麻酔科麻生科		
<input type="checkbox"/> リハビリテーション科		
<input type="checkbox"/> 緩和ケア科		

支援内容で検索（複数選択可）	
仕事と家庭の両立に配慮した就業環境	
<input type="checkbox"/> 短時間労働制度	<input type="checkbox"/> 非常勤勤務制度
<input type="checkbox"/> フレックスタイム制	
<input type="checkbox"/> 診療科による専攻の事情等による急な勤務変更へのバックアップ体制	
<input type="checkbox"/> 当番の免除	<input type="checkbox"/> 夜間オンコール免除
<input type="checkbox"/> 院内保育園	<input type="checkbox"/> 提携（院外）保育園
<input type="checkbox"/> 産後保育	<input type="checkbox"/> 病後児保育
<input type="checkbox"/> ベビーシッター費用補助	<input type="checkbox"/> 育児休業・介護休業等、長期休暇取得後の復職復帰
<input type="checkbox"/> 育児短時間制度（期限有）	<input type="checkbox"/> 学童保育（常時開設）
<input type="checkbox"/> 学童保育（長期休暇時のみ開設）	<input type="checkbox"/> 育児休業取得条件有り
<input type="checkbox"/> 育児休業・介護休業中の給与を保障	<input type="checkbox"/> 不妊治療休暇
スムーズな臨床現場復帰に配慮した就業環境（生涯学習への配慮）	
<input type="checkbox"/> 女性医師支援部門設置	<input type="checkbox"/> 復帰前の短期トレーニング（見学会等）
<input type="checkbox"/> 学会・研究会参加への補助	<input type="checkbox"/> 図書館の整備
<input type="checkbox"/> 立脚読書・インターネットアクセスの整備	

【復職支援協力医療施設一覧】(R2.3.3 現在)

◆公的医療機関等

病院名	担当 医師	その他 担当者	ホームペ ージ登録	病院名	担当 医師	その他 担当者	ホームペ ージ登録
伊東市民病院	○	○	○	市立島田市民病院	—	○	○
国立病院機構静岡医療センター	○	○	○	藤枝市立総合病院	○	○	○
富士宮市立病院	○	○	○	磐田市立総合病院	○	○	○
富士市立中央病院	○	○	○	中東遠総合医療センター	○	○	○
静岡県立こころの医療センター	○	○	○	浜松医療センター	○	○	○
静岡県立こども病院	○	○	○	浜松赤十字病院	○	○	○
静岡赤十字病院	○	○	○	JA 静岡厚生連遠州病院	○	○	○
JA 静岡厚生連静岡厚生病院	○	○	○	総合病院聖隷浜松病院	○	○	○
JA 静岡厚生連清水厚生病院	○	○	○	総合病院聖隷三方原病院	○	○	○
医療法人社団健育会西伊豆健育会病院	—	○	—	静岡市立清水病院	○	○	—
県立静岡がんセンター	○	○	—	静岡済生会総合病院	○	○	—
沼津市立病院	○	○	—	焼津市立総合病院	—	○	—
伊豆赤十字病院	○	○	—	菊川市立総合病院	○	○	—
沼津中央病院	○	○	—	公立森町病院	—	○	—
順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	—	浜松労災病院	○	○	—
共立蒲原総合病院	○	○	—	国立病院機構天竜病院	○	—	—
静岡県立総合病院	○	—	—	浜松市国民健康保険佐久間病院	○	○	—
静岡市立静岡病院	○	○	—	鷹岡病院	—	○	—
下田メディカルセンター	○	○	—	清水駿府病院	○	○	—
裾野赤十字病院	○	○	—	市立聖隷袋井市民病院	—	○	—
伊豆医療福祉センター	—	○	—	市立御前崎総合病院	—	○	—
三島総合病院	—	○	—	市立湖西病院	—	○	—



◆その他医療機関

病院名	担当 医師	その他 担当者	ホームペ ージ登録
聖隷沼津病院	○	○	○
三島共立病院	—	○	○
池田病院	—	○	○
医療法人清仁会日本平病院	—	○	○
静岡徳洲会病院	—	○	○
国際医療福祉大学熱海病院	○	○	—
富士整形外科病院	○	○	—
十全記念病院	—	○	—

◆診療所

病院名	担当 医師	その他 担当者	ホームペ ージ登録
木村産科・婦人科	○	—	○
坂の上ファミリークリニック	—	○	○
浜松佐藤町診療所	○	○	○
やまなしクリニック	○	—	○

登録がお済でない医療施設はふじのくに支援センターホームページTOP → 復職支援情報 → 復職支援協力医療施設登録より簡単に登録が可能です。是非ご協力をお願いします。

医療施設名 (必須)	<input type="text"/>
ふりがな (必須)	<input type="text"/>
病院規模 (病床数) (必須)	<input type="text"/>
担当者メールアドレス (必須)	<input type="text"/>
担当者メールアドレス (確認) (必須)	<input type="text"/>
住所 (必須)	〒 <input type="text"/> - <input type="text"/> 半角で入力してください (住所自動入力) <input type="text"/>
連絡先 (電話番号) (必須)	<input type="text"/>
ご担当者名 (必須)	<input type="text"/>
貴院ホームページアドレス	http:// <input type="text"/>
	内科系
	<input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 内分泌・代謝内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 肝臓内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input type="checkbox"/> 免疫・リウマチ内科 <input type="checkbox"/> 精神科神経科 <input type="checkbox"/> 小児科

実施状況

啓発活動

医学生・医師・管理者の先生方が情報共有を目的に静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会や交流会等のイベントを開催しました。

◀ ロールモデル講演会 ～家庭とお互いのキャリアアップの両立を目指して～ ▶

会 期	令和1年9月13日(金)
会 場	浜松医科大学多目的ホール
参加者	学生14名、医師26名、 コメディカル、その他6名

【概要】

今年で5回目の開催です。今回は勤務医以外のパートナーと結婚された3名の先生方に講演頂きました。

中島有香子先生はブランク10年を経て救急部に非常勤医師として復職、4年目となる今年からステップアップをしてフルタイム勤務になりました。働く時間が増えたことで時短家電等を活用しながら研究医の旦那様と協力し、仕事のやりがいも大切にしながら3人のお子さんを育てています。

浅井はるか先生は研修医の時に第1子を出産、その後大学勤務を開始した年に第2子を出産、いずれも産休までの勤務期間が1年に満たないため、育児休暇が取得できず、産休後に復帰、その後も保活に苦労されたご経験があります。心理士の旦那様が積極的に家事・子育てにも参加し、時にははるか先生の話に傾聴してくれるそうです。現在の職場は女性医師が多いのでそれを活かして効率良く業務をこなせるように工夫しているとのことでした。

永房鉄之先生の奥様は弁護士でとても多忙な毎日をご過ごしているため奥様のご両親が全面的にサポートして下さり、子育てをしているそうです。印象的だったのは「子ども・義父母のワーク・ライフ・バランスも大事!」との言葉通り、ご自身と奥様も含め、各々が趣味を大切にしつつ仕事にもやりがいを見出し、楽しそうに過ごしている事でした。

満席となった会場からも沢山の質問を頂き、笑い声の絶えない座談会となりました。

講演して下さった先生方、ご参加頂いた皆様ありがとうございました。

ロールモデル講演会
家庭とお互いのキャリアアップの両立を目指して

勤務医以外のパートナーと結婚された先生方にご講演頂きました。
出会いから結婚に至るまで、また、お互いのキャリアについての理解や家庭との両立で苦労したこと、乗り越えるコツ等をお聞かせします。

2019.9/13(金)
17:30～19:00
浜松医科大学医学部附属病院
多目的ホール

講師 中島有香子(救急部)
浅井はるか(産科)
永房鉄之(産科)

1 「思いがけない出会い」
中島 有香子(浜松医科大学医学部附属病院 救急部)

2 「心算で生活しているがゴール」
「思いがけない出会い」
浅井 はるか(産科)

3 「産と育のワーク・ライフ・バランス」
永房 鉄之(浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科)

4 質疑応答

申込方法
お名前・所属をご明記の上、右記までご連絡ください。
※返戻をご希望の方はその旨お知らせください。
※当口はお弁当をご用意しております。
席に限りがありますので、終了の期にはご参加ください。

浜松医科大学女性医師支援センター事務局
053-435-2380
dr-info@hama-med.ac.jp

主催 静岡県医師会・ふじのくに女性医師支援センター・浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター



◀ キャリア支援シンポジウム ～医師として働く未来を考えよう～ ▶

会期	令和1年12月14日(土)
会場	静岡県立総合病院 先端医学棟 2F メディカルスキルアップセンター
参加者	医師 24名 その他 9名

【概要】

今年度はコンセプトを少し変え、女性医師の復職・キャリア支援だけでなく県内若手医師のキャリア形成を現場の医師としてどう考えていくかを軸としたプログラムとなりました。

特別講演は広島大学医学部附属医学教育センターの蓮沼直子先生に登壇していただき、昨年度まで活動されていた秋田大学でのキャリア教育、男女共同参画支援についてお話しいただきました。学生に対して自身のキャリアプランの意識を持たせる。女性だけでなく男性医師にも子育ての支援策があることを知ってもらう。など知るべきことを知らせる重要性を教えていただきました。

基調講演では静岡医療センターの小澤章子先生は国内の医師の働き方について、今後の身通しと静岡県の現状、麻酔科女性医師の実例を挙げていただきお互いの生活の質も大切にしつつ安全に医療を行えるチーム医療を構築していく重要性をお話しいただきました。

県立総合病院の三宅章公先生はワークライフバランスとは効率よく学び、学ばせていく事と言う考え方を示してくださいました。医師として必要な資質を得るために必要な環境、上司の資質、本人たちのresearch mind、など日々患者さんと向き合い自分に必要なことを見つける大切さを語って頂きました。

浜松医療センターの芹沢麻里子先生は産婦人科医としてのご自身の経験から働き方のシステムを考え、若手を育て、多職種チームを作っていくことすることで医療のパフォーマンスと患者さんの安全を高める医療が可能であるというお話をしていただきました。

家庭と仕事の両立を目指してお互いに柔軟な意識をもったチーム医療の構築、若い先生たちが何を指すのかという意識とそれを支える指導者の意識と環境。キーワードが沢山あり非常に濃い内容のシンポジウムとなりました。ご講演頂いた先生方、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

「医師として働く未来を考えよう」
キャリア支援シンポジウム

12月14日(土)
15:00～17:15

会場：静岡県立総合病院 先端医学棟 2F
メディカルスキルアップセンター

【特別講演】
女医としてのキャリアと
働き方のワーク・ライフ・バランス
蓮沼直子先生
広島大学医学部附属医学教育センター 教授

【基調講演】
①小澤 章子 先生
静岡医療センター 麻酔科 部長
②三宅 章公 先生
県立総合病院 救急科 部長
③芹沢 麻里子 先生
浜松医療センター
産婦人科 メディカルコースセンター 五センター長

浜松医科大学
女性医師支援センター 事務局
Tel : 053-435-2380
E-Mail : sh-info@hama-med.ac.jp

お問い合わせ方法
メール・電話は、FAX（緊急対応）
でも受け付けております。
このほか、ご来場、ご来聴も、ご遠慮ください。
お申し込みは、お申し込みフォームから、お申し込みください。

共催：浜松医科大学女性医師支援センター / 静岡県医師会 / ふじのくに女性医師支援センター



静岡県女性医師支援担当者懇談会

会 期	令和1年10月11日(金) 18:00～19:30
会 場	静岡パルシェ7F会議室
参加施設	一瀬あずさ 先生(静岡医療センター) 内藤 成美 先生(沼津市立病院) 島崎めぐみ 先生(静岡済生会総合病院) 船井 直子 先生(浜松労災病院)
概 要	事前アンケートの集計結果(P20)を報告し、結果をもとに各施設での活動状況について連携施設の担当者同士が意見交換や情報交換を行い、施設間の連携体制構築や今後の委託事業活動の参考にすることを目的とする。

「ふじのくに女性医師支援センター担当医懇談会」をセンター発足後初めて開催し、東・中・西部地区の病院で当センターとの連携担当となって頂いている先生方においでいただきました。静岡県という東西に長く地域差のある各地域がどう活動していくのか、現場で働いている女性医師に当センターを繋ぐ担当医の先生との在り方など様々な意見が交わされ、センタースタッフにとっても今後の活動に生かせる有意義な懇談会となりました。

台風接近間近のため今回は少人数での開催となりましたが、今後も女性医師担当者間の連携ができるよう定期的な開催をしていきたいと思っております。今回来られなかった先生方も次回の参加をお願いいたします。



学生支援

◀学生・研修医・医師交流会 はまキャリ 2019▶

会期	令和1年7月19日(金)
会場	浜松医科大学医学部附属病院 外来棟4F会議室
参加者	学生13名、研修医1名 医師10名

【概要】

今回も多く在学生・研修医の方に参加頂き、どのテーブルも大変盛り上がっていました。

また、2名の方がお子さんと一緒に参加してくれたので、賑やかな交流会となりました。

「今の診療科を選択したポイントは何ですか?」「実際に育児休暇からあけてどのような勤務をしていますか?」等、具体的な質問が多く、開催する度に情報交換や相談できる場が大切だと感じます。また、来年も多くの方に参加して頂けるような企画を考えていきたいと思えます。ご協力いただきました先生方、ありがとうございました。

【アンケートより感想】

- ・交流会ということで少し緊張していたのですが、時間があっという間に過ぎてしまいました。参加して良かったです!
- ・色々な女性医師の先生とお話をする事ができ、家庭と両立できる働き方があることが分かり非常に良い機会となりました。
- ・家庭との両立について色々と気になっていたけれど、誰にも聞けなかった話を聞けたので今後の参考にりました。

学生・研修医・医師交流会
はまキャリ 2019

仕事と家庭の両立は大変?!
医師同士の結婚ってどう?
専門医を取ってからどう働く?

自分のキャリアスランを
デザインしてみませんか?
先輩ドクターがお答えします!

日程 **7月19日(金)**
14:45~16:10

会場 浜松医科大学医学部附属病院
外来棟4F 会議室

対象 医学生・研修医・医師

お一人でも友達同士でもパートナーと一緒にでも
大歓迎★
座席形式でお茶とお菓子をご用意しています。
男性医師も参加します!

申し込み 締切: 7月17日(水)
窓口: 総務課
申込先: ☎053-435-2500
msh info@hama-med.ac.jp

主催: 浜松医科大学女性医師支援センター
ふじのくに女性医師支援センター



◀学生講義▶

ライフイベントやキャリア形成について、学生のうちから考えられるよう講義の中でロールモデルの紹介や医師を取り巻く現状等を伝えています。今年度は2回講義を行いました。

日 程	令和1年7月5日(金)
対 象	医学生6年生 106名
講 師	谷口千津子 「ライフイベントをプラスに変える！」 ～働く側・支える側 それぞれのメリット～

【アンケートより】

- ・時短勤務の不公平感はやっぱり給料でしか差がつけられないのかな～と思いました。将来、子育てをしていくであろう女性として「支えてもらう」だけでなく、支えるという視点は持っていなかったのを忘れないでいきたいと思います。
- ・以前に比べてこういった授業もあったり。社会としても考え方も変わってきているように思います。私にはよいアイデアは無いのですが、女性として頑張ることで、また、次の世代の女性が働きやすい環境を作れると良いと思いました。

日 程	令和1年11月7日(木)
対 象	医学生4年生 114名
講 師	細川 誠二(女性医師支援センター 運営委員) 【「女性医師支援」の本質は何か】 藤澤 泰子(女性医師支援センター 運営委員) 【女性医師支援～ダイバーシティの視点から】

【アンケートより】

- ・女性医師と結婚している男性医師は妻に家事・育児をまかせっきりせず、協力していく必要があると感じました。子育てをしながら医師を続けていくのは大変なので、「女性は家事をすべき」という昔の考えは改めていかないといけないと思います。
- ・自分が将来働きたい病院を選ぶに当たって、女性医師に優しい環境の病院を選びたいと思いました。そのような病院は女性医師だけでなく働いている人たち全員を大切にするとスタンスがあると思うからです。



アンケート調査報告

【概要】

< 目的 >

本アンケートはふじのくに女性医師支援センターと連携をいただいている医師を対象に県内の女性医師支援活動の向上を目指して現在の県内病院の現状と要望を明らかにすることを目的としています。

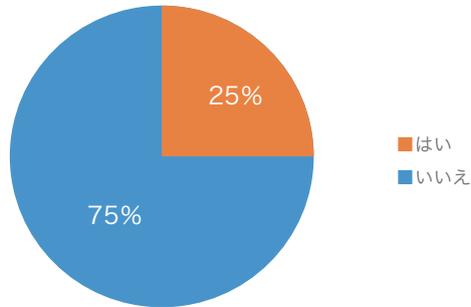
< 実施期間 > 2019年8月～10月

< 対象施設 > ふじのくに女性医師支援センターと連携し、女性医師が在籍しており、相談窓口を設置している施設 38施設中 27施設が回答
(平成31年4月現在・HPのみの登録施設を除く)

【回答施設一覧】

伊東市民病院	JA 静岡厚生連静岡厚生病院
国立病院機構静岡医療センター	市立島田市民病院
沼津市立病院	藤枝市立総合病院
伊豆赤十字病院	磐田市立総合病院
順天堂大学医学部附属静岡病院	菊川市立総合病院
富士宮市立病院	浜松労災病院
共立蒲原総合病院	浜松医療センター
富士市立中央病院	浜松赤十字病院
静岡県立こころの医療センター	JA 静岡厚生連遠州病院
静岡県立こども病院	総合病院聖隷浜松病院
静岡県立総合病院	総合病院聖隷三方原病院
静岡市立静岡病院	聖隷沼津病院
静岡赤十字病院	国際医療福祉大学熱海病院
静岡済生会総合病院	

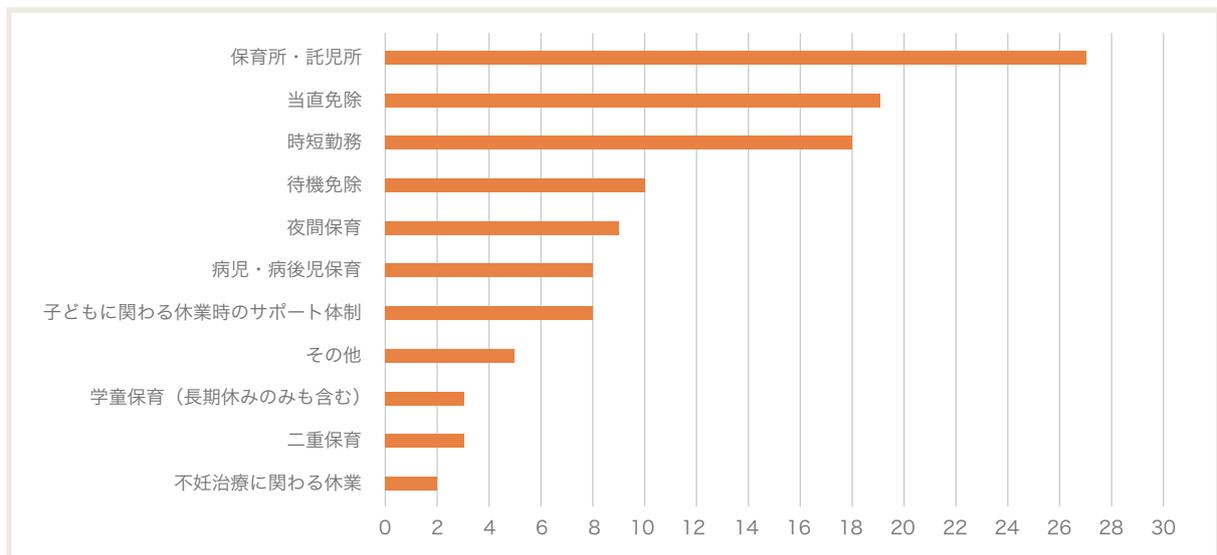
Q1 貴院女性医師間で懇親会等、意見交換の機会がありましたか



Q2 Q1で「はい」と答えた方、開催頻度はどのくらいですか

年6回	1
年1回～2回	4
2年に1回	1

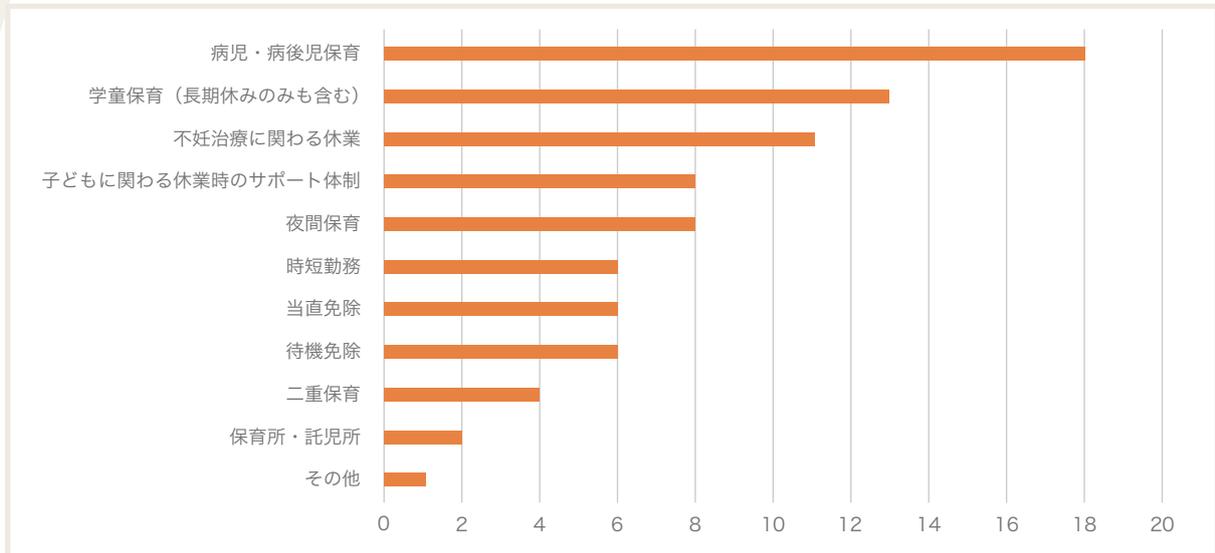
Q3 現在貴院で充足しているとする女性医師支援は何ですか（複数選択可）



※その他

- ・子の看護休暇
- ・管理者が産婦人科なので理解があります。何でも応相談です。
- ・当直・待機免除と時短勤務は診療科の事情に合わせて実施
- ・土日の保育
- ・預かり入院

Q4 現在貴院でまだ不十分と考える女性医師支援は何ですか（複数選択可）



※その他

- ・女性同士の交流や情報交換
- ・当直免除（待機免除）は各々に対して暗黙の了解の部分がありますので、きちんと明文化したほうが良いのかどうなのか、今後考える必要があると思います。

Q5 病院内の女性医師相談窓口に必要な情報は何か

- ・院内で対応できる内容と相談者の希望、勤務時間や勤務日数などの具体的内容
- ・男性医師や他の女性医師からの女性医師サポートに対する意見
- ・市内で利用可能な子育てサポート情報
- ・女性医師のみならず、育児や家事のことについて、どのくらい休暇・休業が取れるかは、各科によって状況が異なるため、女性医師単独の問題としてとらえずその科の問題、ひいては男女共同参画問題としてとらえること。
- ・夫・男性医師の家事育児への参加程度。
- ・他施設での支援状況、連携施設の確認
- ・キャリア形成のための支援内容
- ・現時点において、窓口として存在がありません。個別での対応になっています。
- ・公立病院なので福利厚生は充実し、制度を利用している女性医師もおり体制面でのサポートは足りていると感じているが、女性医師自体が少ないうえに子どものいる女性医師は更に少ないことから体験を伝えたり、精神面でサポートできる人材は不足していると考えます。子育てをした女性医師の体験談などの情報が必要と考えます。
- ・支援を受けられる病院の制度、社会の制度などの知識を初めての妊娠の場合知らないことが多い。県に女性医師支援団体があるということ。
- ・病児保育、学童保育の申し込み方法（年度により少しずつ変わっていてよくわからない）。
- ・病児保育のサポート
- ・女性医師サポート体制としてどのようなものが当院・他院で運用されているのか知りたい。
- ・今のところ具体的な事例が少なく分かりません。
- ・他病院の情報
- ・当院に相談窓口があることをそもそも知りませんでした。
- ・女性医師がどのような情報を得たいと思っているのか、何が足りないのかわからないため、相談窓口に必要な情報等がわからない。
- ・付近の保育園や預り施設、病児保育の情報
- ・様々な働き方の実例（勤務、給与、数年単位での働き方の変化、休業時間、保育資格など）
- ・各科の教授や病院主脳部の女性医師に対する考え方
- ・キャリアアップのための、育児中でも取得可能な資格の情報
- ・時短で働ける程度
- ・保育園（病児含む）の受け入れ
- ・学童の受け入れ
- ・病院全体としての受け入れ体制
- ・当該科の上司・同僚のサポート体制の程度（過去の子育て女医の有無や、その人の勤務体制などの情報）
- ・直接上司に交渉しづらい場合、一時対応してくれる人など？
- ・例えば子供が病気がちだったりする場合、勤務体制に対して助言してくれるサポート機関

Q6 支援を受けている女性医師が同僚医師をサポートできる仕事は何と考えますか

- ・ 定期的に行われている業務、時間がよめる業務など
- ・ 働ける時に一緒に働いてくれること
- ・ サポートを受けている時点で他の医師へのサポートは難しいと思います。実働できる時間は、与えられた仕事を精一杯でこなしているはずで、サポートを受けなくなった時点で（サポートが必要なくなった時点で）後続くサポートを必要としている女性医師のサポートをしてほしいと思います。（そのような働き方が可能ならば）
- ・ 持ち帰り可能な事務処理仕事や論文執筆、電話相談など在宅対応できるもの。ダブル待機や当直待機など（子供の急病時に当直や待機順を交換できる制度があれば可能）
- ・ 自分が支援を受けた後、同僚が同じ立場になったら、同じようにサポートすること。
- ・ お互い様の精神。
- ・ 自分が可能な時間は、すすんで他の医師の手伝いなど負担を引き受ける。
- ・ 診療科ごと体制が異なるため、一概に回答することは困難です。
- ・ 勤務時間が限られると思いますが、その限られた時間内で何ができるのか、ケースバイケースで話し合う必要があると思います。外来業務、来院救急患者の初期対応、検査業務など
- ・ 時間内におきた病棟急変対応。研修医や看護師さんの教育。手術の助手。学会発表。論文作成。
- ・ 外来業務・日中の病棟管理
- ・ 時間内での業務・電話で可能な対応
- ・ 同僚医師が多忙な際の臨時ヘルプ・研修医への教育・指導
- ・ 一般外来のフォロー、救急外来フォロー、当直明け医師の代診（外来）
- ・ 日中業務の分担
- ・ ルーチン業務を積極的に行うこと
- ・ 休日日中の業務を負担すること
- ・ 受けている支援の内容によっても異なるが、時短勤務や子供に関わる休暇等の支援であるならば、勤務時間中出来る範囲で同僚のサポートができればいいのでは。基本的には、自身が支援を受けたのであれば、今度は支援を受けている女性医師と同じ職場になった際、自分が協力できればいいと思います。
- ・ 労働可能な時間帯で終わらせられる仕事
- ・ 学会期間の勤務
- ・ 電子カルテの指示だし。さまざまな書類記載。多忙時の救急対応支援
- ・ その医師が勤務可能と示している時間内の仕事の充実
- ・ 時間外でも電話相談による対応、指導
- ・ 妊婦や小児の症例への対応
- ・ 平日昼間の仕事全部、夫のいる土日の待機、当直。
- ・ 継続外来・初診外来のフォロー
- ・ 日中の救急対応のファーストタッチ
- ・ 交代勤務（昼と夜間）

Q7 今後、静岡県の女性医師支援を進めていくにあたって必要な活動は何と考えますか

- ・女性医師支援センターの存在を多くの病院や、学生、研修医、行政などに知ってもらうこと
- ・理解ある男性医師を増やすこと
- ・女性医師相互でのサポート（上の代の医師から現状サポートの必要な代の医師へ）代々ある程度の女性医師サポートが受け継がれていき、男性医師の理解も得られるようにするネットワークが必要と考えます。
- ・子供が小さくて、または介護で長時間働くことが難しい時期は期間が限られているため、その期間のキャリアを切らすことがないように短時間でも働いて欲しい病院と、短時間勤務を希望する医師のマッチングが進むと良いと思う。任期を区切っておき、次の医師の補充が見込めれば病院も医師も双方が安定できると感じます。
- ・女性医師支援ではなく、男女共同参画で。
- ・女性医師が静岡県に定着するための活動（特に東部地区）ここで子供を育てたいと思える生活環境の整備（教育環境・周辺設備・地域の安全性交通アクセス他）
- ・男性を含んだ医師の負担の軽減。県内の医師数の充足。患者の意識。
- ・全国への支援している事のアピール
- ・このような活動の周知
- ・施設同士の情報共有（ex. 具体的な活動例など）
- ・職場を離れたときの支援体制が必要であると考えます。例えば旦那の転勤などで住まいが変更になったときの相談や支援窓口を設置や、また復帰に向けた研修や復帰プログラムなど、よりスムーズに職場へ戻ってこられるような体制づくりが必要ではないかと思う。それには復帰率であったり、復職者からの聞き取りであったり、様々な情報を集約し、データを分析して体制を構築していく必要があるのではないかと思います。
- ・このような支援団体があるという認知を広めること。対象となる女性医師や窓口となる私たち担当医師に対しても女性支援に関して必要な情報を得られる勉強会をもっとたくさん開催して下さるといいな、と思います。
- ・できるだけ多くの女性医師の経歴を、若い女性医師や女子医学生に知ってもらうこと（良かった点も悪かった点も含めて）、臨床科ごとの特徴などを知ってもらうこと
- ・育児のサポート体制も大切だが、同僚、上司、病院スタッフの理解を得られるような活動をしてほしい。（サポート体制が実際あっても利用しにくい。子育ての急病ではやはり休みにくい。）
- ・同僚の理解を求めするための啓発活動（面倒な存在からうまく利用できる存在としての認識）
- ・女性医師サポート体制に関する運用内容の公表（必ずしも優遇されていることばかりではなく、特に給料面では非常勤医として複数の医療機関で働く方が得であっても、あえて時短勤務を選択する女性医師がいること）
- ・各病院毎の女性医師支援の内容が一覧になっているサイト等があれば、県外から転居してくる女性医師が再就職先を選択する手助けになると思う。
- ・時短勤務・当直免除の期間や上限下限を明確化して、役職に係わらず、しっかり支援を受けられる体制にしてほしい。
- ・診療科トップの意識改革、周囲の意識改革
- ・女性医師以外に極端にシワ寄せがいかないような勤務体制、人員の確保
- ・短時間勤務が可能な常勤枠を作る

- ・女性医師も立場によって必要な情報が違います。結婚、子育て、介護など・・・既に講演会等で御紹介いただいておりますが、「こういうキャリアの人がこうして」など、さまざまなロールモデルの情報があると思います。また、支援を受けたい人は講演会等になかなか参加できない状況もありますので、ネット等で支援できるしくみ作りが必要かと思います。
- ・具体例を挙げて出産後も働けると思わせる土壌作り
- ・働いている女性医師からの情報発信を盛んにしていく
- ・確かに女性がライフイベントを経ながら医師として働き続けるのは困難が伴いますが、「税金を使って医師資格を取ったからには辞めてはいけない」と、当院の女性医師が言っています。そのために必要なのは、学生のうちからの動機づけであるとも。先日のロールモデル講演会はその一つなのだと思いますが、「覚悟を持って働く」ということを学生のうちからしっかり教育いただくことこそが近道なのだと、その女性医師の話聞いて感じました。
- ・社会全体として医師も交代勤務をするということを周知できる様啓蒙していただきたい。日中、主治医を呼ぶということがなければ交代しやすくなる。
- ・県としてアナウンスする。
- ・現在常勤で勤務しています。病児保育、ないし病児をかかえ欠勤する際のサポート体制、産休・不妊治療による欠勤者などのサポート体制が必要と思います。実際、そこだけ埋めてくれる都合のいい人材はなかなかおりませんが、欠勤者がでると残りのメンバーでがんばる、ということになり、期限付きの場合はがんばれますが、欠勤者の都合も変わるため、実際は限界があります。また勤務時間内に紹介状返書、レセプトなどの書類仕事や、手術記録の記載など間に合わず、時間外勤務が必要となりますが時間外として使用できるのは、平日の7時までか、土日となるため、通常の保育所の利用の場合では難しいでしょう。そのため時間内の仕事もセーブするしかなくなるのではないのでしょうか。一概に女性医師、子持ち女医だけの話ではないですが、書類仕事による仕事の逼迫は割と大きいと思います。
- ・磐田市に病児保育がありません。病後児は複数施設で空きがあります。
- ・これから妊娠・出産を迎えるであろう若手の先生方と交流する機会があると良いです。

【まとめ】**◆ Q5 病院内の女性医師支援窓口に必要な情報は何か**

自由記載のため下記の5つの項目に分類しました。意見の多かった順にAより記載しています。

A. アンケート調査

- ・男性医師の家事、育児参加
- ・各科、病院上層部の女性医師に対する考え方

B. ロールモデル情報

- ・体験談
- ・働き方の実例：勤務形態、給料、働き方の変化、休業時間

C. キャリア形成のための支援情報：各科の専門医情報**D. 病院・社会における支援制度**

- ・地域で利用できる子育てサポート情報
 1. 保育園や預かり施設
 2. 病児保育
- ・病院における支援制度

E. 他院の情報**◆ Q6 支援を受けている女性医師が同僚医師をサポートできる仕事は何と考えますか**

【問題点】・科によって一律ではない。

- ・支援を受けている女性医師の場合、時間に制限がある
- ・限られた時間で何ができるか。ケースバイケース

【提 案】・定期の業務の分担

- ・予定時間がはっきりしている業務
 - Ex) 手術の助手・研修医、Ns 指導・
- ・外来・病棟業務
- ・時間内救急当番
- ・学会期間中の勤務
- ・自分の可能な範囲で他の医師の手伝い

【その他ご意見】

- ・今はまだ自分の仕事で手一杯。手が離れたら、昔の自分の立場の人をサポート
- ・お互い様
- ・あらかじめ話し合う必要あり

◆ Q7 今後、静岡県の女性医師支援を進めていくにあたって必要な活動は何と考えますか

1. 広報：県内病院。学生・研修医・行政へ
 男性医師への理解
 全国へのアピール
 各施設の女性医師支援内容の一覧（県外からの転居者へ）
2. 女性医師相互のネットワーク
3. 病院 - 医師のマッチング、需要と供給の仲介
4. その地域で子供を育てたいと思えるような生活環境の整備→行政への働きかけ
5. 女性医師支援→男女共同参画へ、医師そのものの負担の軽減を提案
6. 上司・患者への意識改革、啓蒙
7. 施設間の情報共有



【アンケート結果から】

現在ふじのくに女性医師支援センターと連携している施設担当者からのアンケートを顧みて、当センターの活動は個々の施設、医師では収集できない情報の取りまとめとその情報の提供にあると思われました。

現在子育て、キャリア形成真ただ中の先生たちが相談窓口、情報を求めていることは日々の活動で実感していますが、具体的に各施設の中にどうやって相談窓口の存在や情報を浸透させるかが課題です。

連携担当の先生方とセンターとの情報伝達の在り方、具体的な運用方法のご提案をいただければと思います。

相談窓口の設置

出産・育児などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ就業・キャリアに関する相談窓口を開設しています。

対応者	コーディネーター2名（専任医師1名、専従事務員1名）
開設時間	平日9時から17時まで

センターの活用

センターでは畳スペース・ソファスペース・テーブルスペースを自由にご利用いただくことが出来ます。カーテンで仕切り体調不良時の休憩や搾乳として利用したり、一時的な保育スペースとして活用いただいております。大学に所属する医師だけでなく、これから復職を考えている方や他の病院に勤務されている方等、どなたでもご利用いただけます。



マタニティ白衣の無料貸出し

ふじのくに女性医師支援センターと浜松医科大学女性医師支援センターの共同事業です。

産前休暇を取得するまで仕事のモチベーションを保ちながら、快適に業務に携わることが出来るようサポートしています。

利用者	大学	その他医療機関
医師	2名	1名

マタニティパンツ始めました!

サイズはS・M・Lの3種類をご用意しています。

サイズ	ウエスト	ヒップ	太もも	股下
S	78	90	29	70
M	86	100	31	72
L	94	112	34	74

マタニティ白衣の無料貸出し

県内全地域対象!

マタニティ白衣の特色

- 肩幅・丈がゆったりゆとりあり
- フロントボタンが取り外し可能
- 袖口はゴムで調整可能
- 裾はゴムで調整可能
- ポケットは取り外し可能
- 素材はストレッチ素材

規格 (標準サイズとの比較)

サイズ	身長	バスト	袖長	腕丈
標準S	95	97	38	55
マタニティS	90	112	50	54
標準M	100	101	39	55
マタニティM	95	136	39	51

●2枚1セットでレンタルします。
※標準サイズは浜松医科大学の白衣サイズを掲載しています。

レンタル方法 ※郵に限りがある為、ご希望に添えない場合がございます。

- 申込書にご記入いただき、メール又はFAXで窓口へ提出
- 在庫確認後、ご連絡いたします。
- 窓口で前送お渡し、又は郵送となります。

返却方法

クリーニングを済ませた白衣を窓口へ前送お待ちしておりますが、郵送でご返却下さい。(返却時の送料はご負担ください)

センターに
来れる方は試着が
可能です。

お問い合わせ・申し込み

浜松医科大学女性医師支援センター
〒451-8592 浜松市津区平田41-20-1
TEL/FAX 055-435-2580 E-mail: dr-inf@hama-med.ac.jp

ホームページからのご申し込み
<http://www2.hama-med.ac.jp/infocenter/>

協働事業 浜松医科大学女性医師支援センター・ふじのくに女性医師支援センター

ゴムベルトでウエスト調整可能

お腹周りはリスなので安心

ふじのくに女性医師支援センター
センターのロゴ入り♡

動きやすいストレッチ素材

広報活動・情報発信

ホームページについて

【概要】

静岡県内で活動する女性医師の就業や子育てに関する情報とふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載するホームページを平成30年2月に開設しました。医師としてのキャリア形成や仕と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関情報や地域の子育て支援情報をインターネット上で容易に収集できることで県内での就業復帰を後押しすることを目的としています。

ふじのくに女性医師支援センターホームページ

<https://www.fujinokuni-w.jp/>



ホームページアクセス数



アクセス数は Webalizer ソフトを使用し、30分以内の同一 IP を除いた訪問者数をカウントしています。

視 察

訪問者	神奈川県議会
訪問日	令和1年9月10日(火) 10:00～11:30

台風が通り過ぎた9月10日、神奈川県議会議員の佐々木ナオミさん、市川佳子さん、首藤天信さんが女性医師支援センターに視察に来られました。センター長の戸倉先生と共にご挨拶をさせていただき静岡県における「ふじのくに女性医師支援センター」の活動が始まった背景や実際の活動内容、成果について説明をさせていただきました。

終始和やかにお話をさせていただき、所属大学や病院に関わらず県内にわたって支援する体制や仕事をしている先生方、各々の環境に配慮した相談ができる窓口体制について評価いただきました。話をしながら自分たちにまだ足りないところや、やるべき課題も浮かび上がり励まされた気分です。ご訪問ありがとうございました。



訪問者	眼科医会
訪問日	令和1年12月12日(木) 15:00～16:00

静岡県眼科医会理事の家田貴子先生が女性医師支援センターを視察にいらっしゃいました。眼科も女性医師の割合が増加している科の一つであり、静岡県眼科医会としても出産・育児等で仕事を離れた女性医師の仕事復帰・キャリアアップに協力し、家庭と仕事の両立ができる職場づくり構築するための活動をされています。

ふじのくに女性医師支援センターの約3年間の活動や成果をご説明させていただくと共に、医会の活動についても情報共有させていただきました。まだまだ県内での活動が周知されていない現状を反省すると共に今後の活動について連携をお願いしました。

講演会・シンポジウム等での発表

平成 31 年 4 月 29 日

戸倉 新樹「女性医師支援センターでの子育て支援」

第 30 回日本医学会総会 2019 中部支部

名古屋国際会議場 2 号館 3 階 会議室 231

平成 31 年 4 月 29 日

谷口千津子「終わらない子育てを経験しながら。次に繋げる取り組み」

第 30 回日本医学会総会 2019 中部支部

名古屋国際会議場 2 号館 3 階 会議室 231

令和 1 年 6 月 8 日

谷口千津子「女性医師の働き方支援を考える」

日本消化器科学会東海支部第 130 回例会

アクトシティ浜松コンGRESセンター

令和 1 年 7 月 17 日

谷口千津子「浜松医科大学での取り組みについて」

令和元年度第 1 回「全国ダイバーシティネットワーク組織 東海・北陸ブロック会議」

ANA クラウンプラザホテル金沢 19 階 スカイバンケットアストラル

令和 1 年 9 月 10 日

谷口千津子「静岡県の女性医師支援について」

神奈川県議会議員 3 名が来学しました。サポート体制、活動内容を説明しました。

令和 1 年 11 月 10 日

谷口千津子「静岡県の女性医師支援について」

2019 年度日本医師会女性医師支援センター事業 中部ブロック会議

富山第一ホテル 3 階 天平

令和 1 年 12 月 12 日

谷口千津子「静岡県の女性医師支援について」

静岡眼科医会理事 1 名が来学しました。サポート体制、活動内容を説明しました。

その他

◆参加

平成31年4月14日

日本産科婦人科学会第71回学術講演会

指導医講習会

男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会／産婦人科未来委員会共同企画

「働き方改革元年～主治医制？チーム制？」

名古屋国際会議場

令和1年7月14日

第55回日本周産期・新生児医学会学術集会

女性医師が学会運営に携わることを推進するWG主催のカフェ

ホテルブエナビスタ

令和1年7月29日

第2回「医師の働き方改革」に関する意見交換会

(令和元年度第1回勤務医委員会・第1回ワークライフバランスWG合同会議)

ホテルセンチュリー静岡 3階「プラタナス」

令和1年12月8日

令和元年度女性医師支援担当者連絡会

日本医師会館大講堂

◆ブース出展

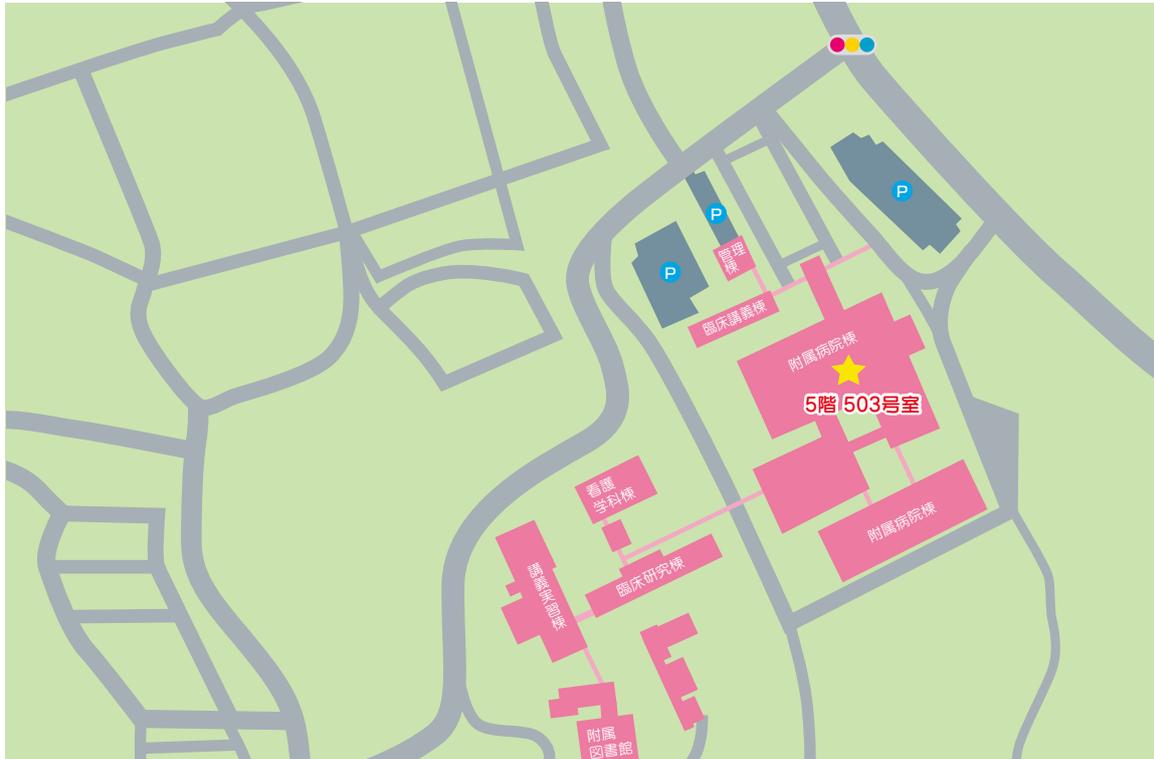
令和1年7月28日

静岡県医師臨床研修・専門医研修病院合同説明会

アクトシティ浜松コンgresセンター 31会議室



36 アクセス・発行について



令和元年度ふじのくに女性医師支援センター活動報告書

発行 印刷日 3月22日

発行 3月29日

発行所 ふじのくに女性医師支援センター

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1-20-1

浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター内

電話/FAX 053-435-2380

E-mail dr-info@hama-med.ac.jp

URL <https://www.fujinokuni-w.jp/>

編集 センター長 戸倉新樹

コーディネーター（医師）谷口千津子

コーディネーター（事務）袴田菜穂子

